

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

沖縄県八重瀬町

自治体名： 沖縄県八重瀬町
担当課名： 教育委員会 学校教育課
電話番号： 098-998-7571

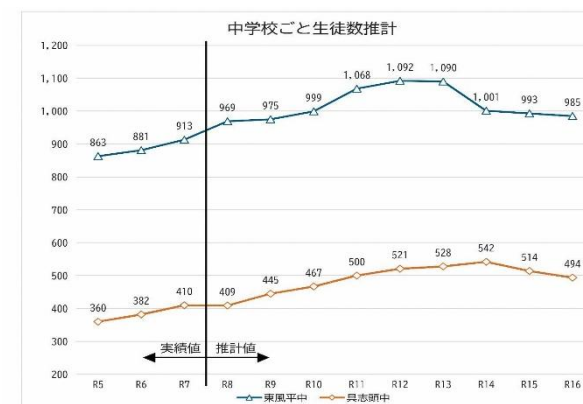
1.自治体の基本情報

基本情報

面積	26.96km ²
人口	33,722人
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	1,355人
部活動数 (運動部活動のみ)	23部活
地域クラブ活動数	0クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

- 各中学校の部活動の現状
 - ・東風平中学校 運動部14部 文化部3部
これまでに地区大会、県大会、九州大会の優勝、全国大会でも上位入賞する部活動が複数あり、部活動が活発な校区
 - ・具志頭中学校 運動部9部 文化部2部
- 課題
 - ・将来（10年後）の生徒数減少を見据え、どのようなスポーツ活動の仕組みが必要か、各種課題の洗い出しとその解決方法の検証
 - ・執行体制の確立（首長部局との連携）、町独自の自主財源確保方法（運営費、会場使用料、謝金等）、受益者の費用負担の在り方
 - ・地域クラブ運営の主体となる事務局体制（地域クラブを統括する部署の設立：運営主体の一元化）
 - ・地域クラブの認定基準策定
 - ・現外部指導者との調整（一貫性指導）
 - ・町青少年健全育成協議会の規定による体育施設の使用時間の調整
 - ・活動時間を長くしたい種目との調整（勝利至上主義ではない：ガイドライン遵守の共通認識）
 - ・活動場所の確保（有償・無償等の検討）
 - ・中体連の大会参加
 - ・平日の部活動との一貫指導
 - ・部活動指導員と地域クラブ指導者
 - ・将来の少子化を見据えた取り組み



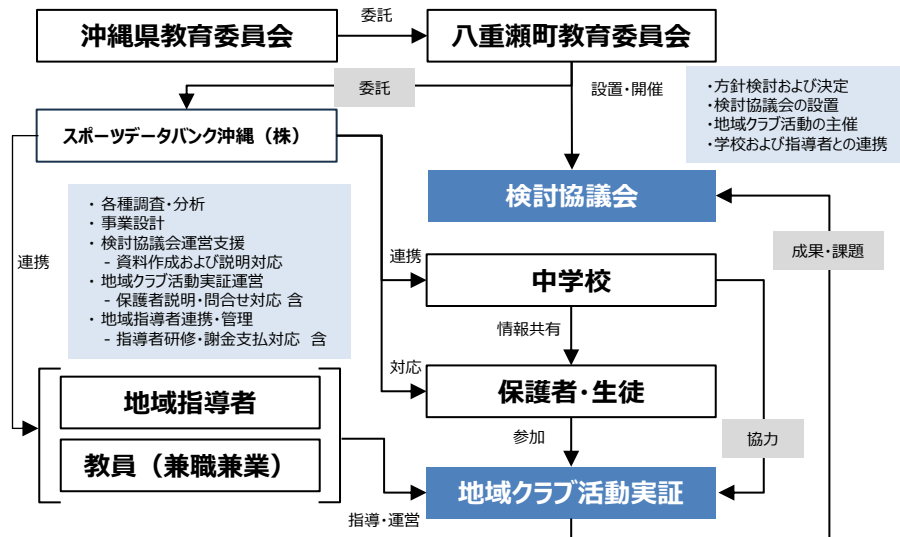
出典：八重瀬町小中学校生徒数及び学級数見込み報告書
(令和7年8月作成)

	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
東風平中	863	881	913	969	975	999	1,068	1,092	1,090	1,001	993	985
具志頭中	360	382	410	409	445	467	500	521	528	542	514	494
計	1,223	1,263	1,323	1,378	1,420	1,466	1,568	1,613	1,618	1,543	1,507	1,479

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（学校教育課、社会教育課、教育施設課）

【八重瀬町部活動地域展開検討協議会】事務局

各種取りまとめ

◎首長部局（企画財政課）

企業版ふるさと納税等

年間の事業スケジュール

令和7年4月 庁内関係部署との打合せ
業務委託契約締結

令和7年6月 実証クラブの調整（関係者調整）

令和7年7月 第1回検討協議会実施

令和7年8月 実証クラブの決定
指導者の選定・決定

令和7年9月 保護者説明会開催
指導者契約締結・研修受講

令和7年10月 実証事業準備
変更契約締結

令和7年11月 第2回検討協議会実施
地域クラブモデル実証開始

令和8年1月 実証後アンケート実施、集計
第3回検討協議会実施
地域クラブモデル実証終了

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		3クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	3クラブ（ハンドボール、卓球、バレーボール）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		
全体の指導者数	4人	全体の運営スタッフ数	3人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
八重瀬町地域クラブ	民間事業者	ハンドボール	・休日 11回	午前または午後	1年生 2年生 31名	令和7年10月～ 令和7年12月	2人	3人 (内、兼務3人)	1,000円/年額	部活動
八重瀬町地域クラブ	民間事業者	卓球	・休日 6回	午前中	1年生 2年生 32人	令和7年11月～ 令和8年1月	1人	3人 (内、兼務3人)	1,000円/年額	部活動
八重瀬町地域クラブ	民間事業者	バレーボール	・休日 3回	主に午前中	1年生 2年生 17人	令和7年12月～ 令和8年1月	1人	3人 (内、兼務3人)	1,000円/年額	部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- FC琉球さくらと連携し、町内中学校サッカー部を対象にクリニックを2回実施。

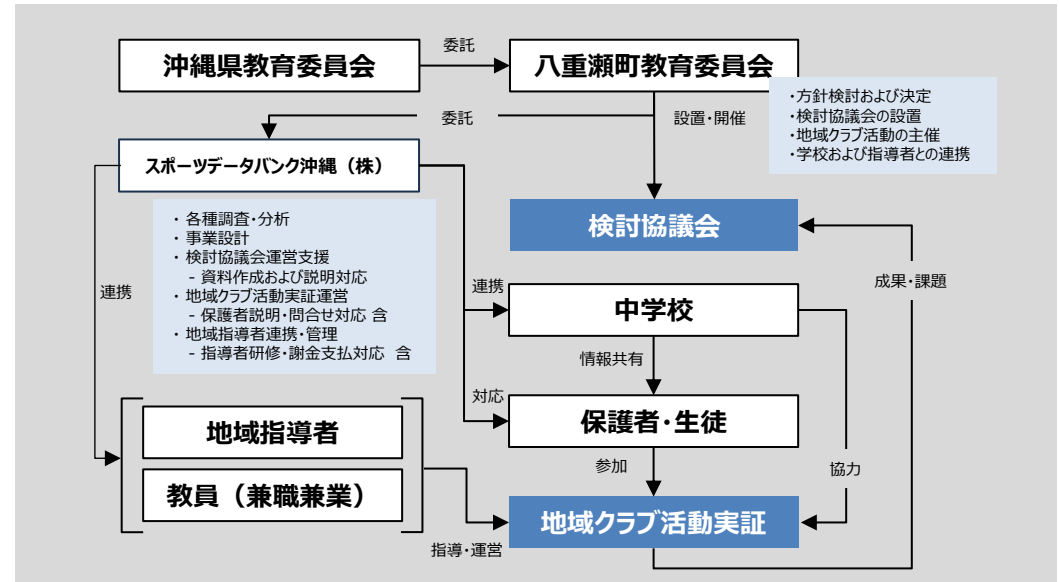
2.実証内容と成果

主な取組例

●八重瀬町地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ハンドボール、卓球、バレーボール
運営団体名	スポーツデータバンク沖縄（株）
期間と日数	ハンドボール：月 4 回程度 卓球：月 2 回程度 バレーボール：月 2 回程度
指導者の主な属性	地域の指導者
活動場所	具志頭中学校、具志頭体育館、 東風平中学校、東風平体育館
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者の送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	全種目一律1,000円（年額）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒 1人あたり：800円/年 指導者 1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

[運営スタッフ]

➤ 統括責任者

役割：運営管理の総括的な監督を担う

➤ ディレクター・アシスタントディレクター・コーディネーター

役割：運営管理・進捗確認を行う（指導者調整・説明会等の実施含む）

[指導者]

役割：研修を踏まえ、適切な地域クラブ活動の運営・活動実施を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 協議会（教育委員会・学校代表・保護者代表・体育協会・外部指導者等）事務局を学校教育課に置き、地域展開の推進に向けた課題と解決案の検討を行う取組
- 統括コーディネーター、コーディネーター等の民間事業者から運営団体のマネジメント人材の育成等に関する取組
- 町や各地域クラブと連携して動ける運営団体の創設や選定の検証（謝礼金の支払いや施設借用予約管理等）の取組
- 運営管理に必要な自主財源確保に関する取組

取組の成果

- 年度内に3回の検討協議会を開催し、庁内及び学校関係者、外部指導者、体育協会等の関係者による推進に向けた課題と解決案の検討を行った。
- 自主財源の確保に関しては、企業版ふるさと納税等を含む民間資金の活用について担当課とその他財源の確保も含めて検討を行った。また、庁内検討会議においても本課題について取り扱い、議論を深めた。

□ 検討協議会

委員

- ・八重瀬町教育委員会
- ・八重瀬町立中学校 校長及び教員
- ・八重瀬町立中学校PTA会長
- ・八重瀬町立中学校外部指導者
- ・町体育協会会長
- ・町バスケットボール、サッカー協会会長
- ・町青少年健全育成会長
- ・町文化協会会長
- ・沖縄県部活動地域移行総括コーディネーター

主な議事

第1回

- ・国及び沖縄県の方針について
- ・先進地域の推進事例
- ・今後の方針検討について
- ・令和7年度の取組

第2回

- ・国や県の検討状況および八重瀬町の方針
- ・令和7年度実証事業の進捗状況
- ・今後の検討内容

第3回

- ・ガイドラインの改訂及び令和8年度予算
- ・令和7年度実証事業成果報告
- ・八重瀬町における令和8年度以降の取組方針について

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

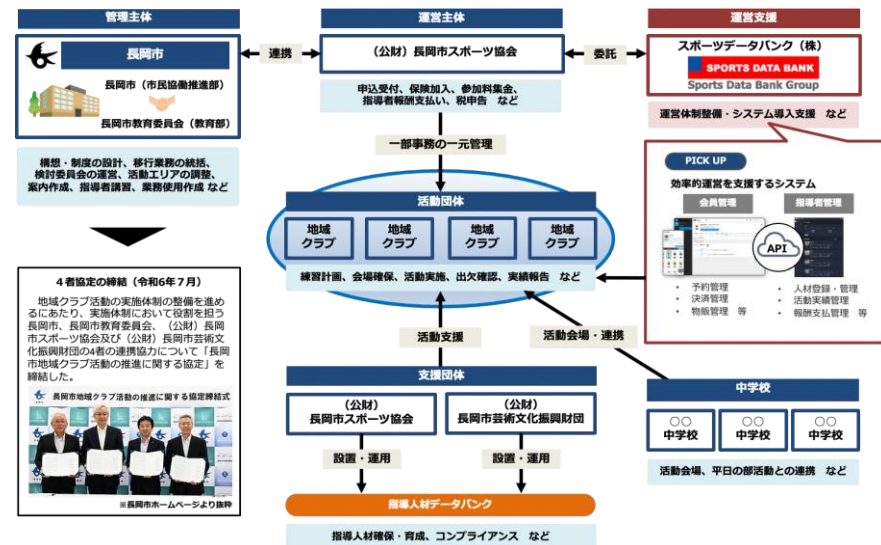
今後の取組における課題

- 関係者間での共通認識の理解形成や、指導者研修受講の遅れ等により当初の計画より実証開始に遅延が発生した。
- 企業版ふるさと納税に関しては活用について一定の方向性を得られた一方で、営業計画や広報戦略の策定も進める必要がある。
また、受入額の規模や安定性を鑑み、個人版ふるさと納税についても検討を進める必要がある。
- 運営団体の創設や選定に関しては、年度内の取組は実施することができなかった。

課題への対応方針

- 次年度以降については共通認識の理解形成を目的とした情報発信や、指導開始までのスケジュールの明確化等を行い当初の計画から遅延が発生しないよう取り組む。
- 個人版及び企業版ふるさと納税については、他地域事例を参考に検討を進め、導入に繋げる。
- 運営団体の設置有無や在り方については、他地域事例の収集と併せて継続的に検討する。

□ 第1回検討協議会より資料抜粋（運営団体の事例について）



POINT

- 新潟県長岡市では、市スポーツ協会が運営団体として地域クラブの運営を行っている。
- 具体業務としては申込受付、保険加入、参加料集金、指導者報酬支払い、税申告等である。
- 自治体（長岡市）は管理主体として構想・制度の設計や検討委員会の運営、指導者講習等を実施している。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

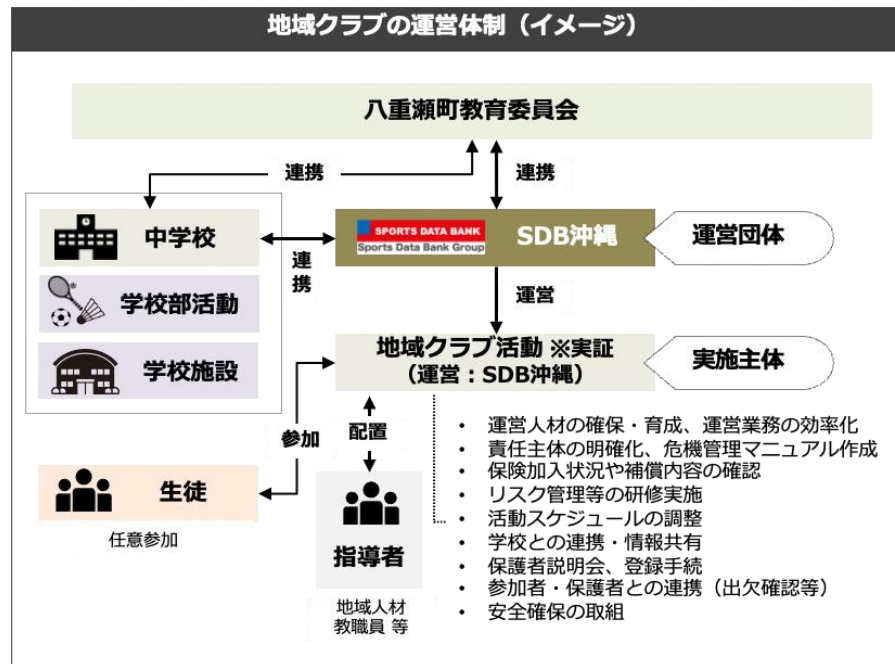
ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

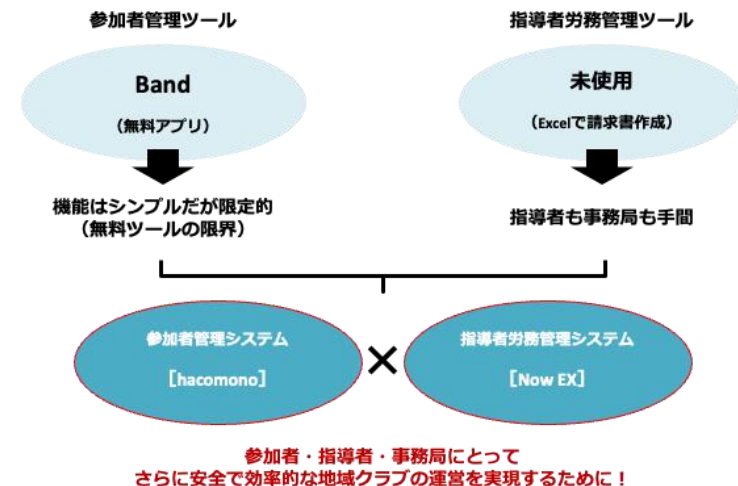
- 本業務は、専門業者へ委託を行い、本町との連携により具体的な業務を行った。
- 本年度は委託事業者を運営団体および実施主体と仮定した業務を実施し、各ステークホルダー（学校関係者・指導者・保護者・生徒等）および本町との調整を図った。



引用：第2回検討協議会議資料（スポーツデータバンク沖縄（株）作成）

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

- 本年度の取組みでは、委託業者が他地域において先行的に活用している無料のICTツール（Band）を活用した、スケジュール共有およびコミュニケーションを図った。
- 次年度以降に向けて、新たな参加者管理システムと指導者労務管理システムの導入を見据えてデモ環境を構築し、研修とデモ運用を実施。



今後の対応

- ・ 指導者（クラブ運営者）のICTリテラシー向上や既存運営（LINEグループ等の活用）からの脱却が必要
- ・ 操作修得には期間を要するため、今後は十分な操作体験期間を設定し研修等も実施し指導者のフォローを行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

- 専門業者へ委託を行い実施した。
- 委託業者の運営マニュアルに基づく安全管理とリスクマネジメント研修を指導者へ実施。（※詳細は「イ：指導者の質の保障・量の確保」にて記載）
- 委託業者にて、指導者のプロフィール（資格情報）を取得。
- 指導者は、上記研修に加え、既に外部指導員として活動する方が関わることで、参加者の信頼度も高い。

参考 | 委託事業者の研修内容

項目	概要
指導・活動上の注意	地域クラブ活動での指導、体罰・ハラスメント 指導態度・服装
危機管理対応について	留意事項、事故・怪我についての対応 救急搬送マニュアル、確認事項（症状・病状） 怪我・事故の再発防止 光化学スモッグ及びPM2.5の対応、落雷時の対応 地震時の対応、感染症時の対策対応、台風時の対応、熱中症対策 夏季活動と熱中症対策について（保護者・生徒案内） 緊急連絡先・連絡の流れ 緊急対応後（保険請求時）の流れ

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

- 専門業者へ委託を行い実施した。
- 委託業者の運営マニュアルに基づく対応を指導者や保護者へ周知した。
（本年度は実際の運用発生はなし）

提供：指導者運営マニュアル（スポーツデータバンク沖縄（株））

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

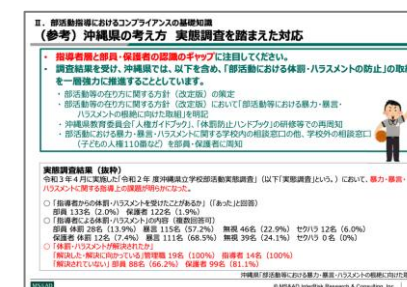
取組事項

- 町内2中学校に外部指導者が現在22名活動中
東風平中学校：運動部14部、文化部3部
外部指導者数：運動部15名 文化部1名
具志頭中学校：運動部9部 文化部2部
外部指導者数：運動部7名 文化部0名
- すでに指導されている外部指導者との協力体制構築（人材バンク等）及び休日と平日の一貫指導
- 兼職兼業で指導を継続した教員の指導体制確保や公務員、会社員として勤務されている指導者の労働基準法を遵守した指導時間の確保
- 指導者が安心・安全に指導できる体制の研修やハラスメント防止研修の実施

取組の成果

- ハンドボール及びバレーボールにおいては、すでに指導されていた外部指導者が実証の指導者として参画したことで休日の地域クラブと平日の部活動との一貫した指導を実証することができた。
- 兼職兼業について今年度は実績なし。
- 指導者全員に指導者に共通して必要とされる資質の向上を図ることを目的に、e-Learningの受講を指導開始前に完了させることを必須とした。

▼e-Learningイメージ画像



今後の取組における課題

- 指導者が社会人中心のため平日の対応が難しく、研修受講完了が当初の計画よりも遅れた。
- 兼職兼業については次年度以降検証する必要がある。

課題への対応方針

- 指導者への説明会の際に改めてe-Learning受講の必要性や期日を決めスケジュールを共有することで、研修の早期受講を目指す。
- 令和7年7月に実施した実態調査アンケートにおいて、教員の約2割が休日の地域クラブ活動に「関わりたい」「できる範囲で関わっても良い」と回答しているため、兼職兼業による地域指導者としての活動環境を整備していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

□ 現役の外部指導者だけでなく、以前外部指導者として関わっていた指導者も今回参画している。

指導者研修の内容

1. 自然災害への対応	- 自然災害の基礎知識（特徴、過去の被害 等） - 風水害対策について（指導中止・中断の判断 等）
2. 救急蘇生法一次救命処置と熱中症	- 一次救命処置（救命の可能性と時間経過 等） - 熱中症（熱中症の重症度と症状・治療 等）
3. 部活動における防犯	- 少年法と犯罪発生状況（少年法に関する知識 等） - 防犯から見た体罰（体罰の定義等）
4. コンプライアンスの重要性とハラスメントの防止	- コンプライアンスとは（部活動指導におけるステークホルダーの期待 等） - 事例と解説（不適切行為の事例 等）
5. 子どものメンタルヘルス不調と対応	- 思春期のメンタルヘルス（思春期の特徴） - こころの不調への気づきと対応（声かけのポイント 等）
6. 個人情報の取り扱い	- 個人情報の基本（真に守ってほしい情報の理解 等） - ソーシャルメディアの利用と情報漏えい（利用上の留意点 等）

指導者研修受講者の声

Q. 地域クラブ活動に関する研修内容（e-Learning）について、特に役立った内容

→救急蘇生法（一次救命処置と熱中症）、部活動における防犯について、子どものメンタルヘルス不調と対応について

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者の資格取得促進に向けた取組

- 本年度は、委託事業者が実施する研修受講を要件とした。
- 本町として、新たな資格取得を行う補助等は実施なし。

指導者総数	4人
資格所持指導者数	3人
取得資格名	スポーツ指導者 ハンドボールコーチ3 スポーツコーチングリーダー

今後の対応

- ・ 本町としての指導者要件および研修メニューの検討（国が示す指導者登録制度を参考とする）
- ・ 指導者の資格取得の補助を行うための財源確保（企業版ふるさと納税等の民間資金の活用等）

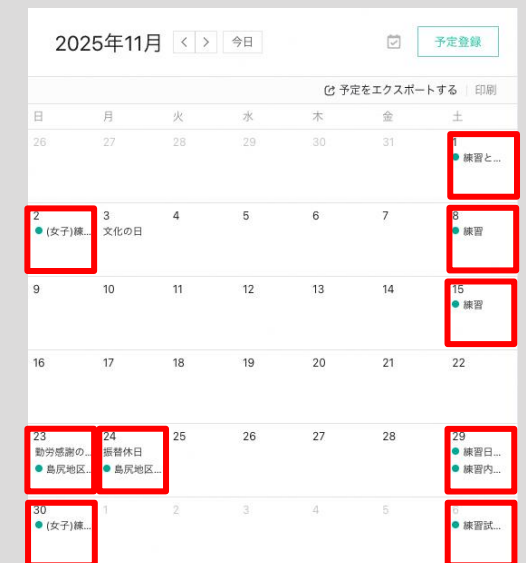
平日・休日の一貫指導に関する取組

- すでに外部指導者として指導にあたっていた人材を指導者として配置したため、平日と休日の一貫指導が可能となった。
- またICTツール（Bandアプリ）を利用し、指導者と学校教員間の活動内容の共有を行った。

●活動日程



●月間スケジュール確認画面



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 地域展開を見据えて、町バスケットボール協会やハンドボールクラブが立ち上がり、連携して本町の地域クラブ展開に関する取組

取組の成果

- 町バスケットボール協会については、会長が検討協議会の委員として参画し、町としての方針決定等について連携して取り組んだ。
- その他、体育協会や競技団体、文化協会についても同様に検討協議会の委員として参画しており、連携して取り組みを進めている。
- 八重瀬町をホームタウンとして活動する「FC琉球さくら」（女子サッカー）と連携し、町内中学校サッカー部を対象にクリニックを実施。

今後の取組における課題

- 各団体との連携が検討協議会のみにとどまっているため、今後は個別に地域クラブ展開に関して取組を強化する必要がある。
- FC琉球さくらとの連携に関して、シーズン中の休日に定期的に連携することは極めて困難である。

課題への対応方針

- 今後実証クラブを拡充する際に、指導者や実施場所の確保において各団体と協議し、どのような連携のあり方が望ましいのか検討を進める。
- FC琉球さくらとの連携に関しては、チーム側のメリットも踏まえた形での連携のあり方を引き続き協議していく。

地域公共交通との連携に関する取組

まちづくりと連携した取組

関係団体等との連携に関するスポーツ推進委員の取組

- 今年度は具体的な取組なし（本町の方針検討を実施）

今後の対応

- ・ 本町単独での検討だけでなく、近隣地域との広域連携も視野に検討を行う。
- ・ 沖縄県が連携協定を締結した「ブカツ・サポート・コンソーシアム」の活用を含めた、県単位での取組推進について検討を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 地域展開を推進するために学校教育課に適切な人材配置を行う
- 関係者等の理解促進のための広報活動（周知方法の検討及び実施）

取組の成果

- 関係者へ向けた理解促進のための広報活動については、今年度は他地域の事例収集を実施し検討を進め、3月に発行する広報誌（広報やえせ）にて部活動地域展開に関して1ページの記事掲載の実施が決定した。

今後の取組における課題

- ポータルサイトやSNS等のデジタル媒体については今年度中の方針決定までは至らなかった。

市区町村等を越えた取組

- 今年度は具体的な取組なし

課題への対応方針

- 先行自治体の事例を参考に、ポータルサイトやSNS等のデジタル媒体を活用した広報活動の検討を進める。

➤ 主な先行自治体の事例

自治体名	活用媒体	掲載内容
東京都昭島市	・あきしま部活動だより ・ポータルサイト	・国、市の方針 ・モデル事業の概要や日程等 ・説明会の日程 など
東京都調布市	・ポータルサイト	・市の方針、地域展開へのスケジュール ・モデル事業の告知や前年実績 など
東京都日野市	・ポータルサイト（内部向け、外部向け）	・募集プログラム、参加方法 ・これまでの実績 ・企業向けの告知（企業版ふるさと納税） など
茨城県神栖市	・ポータルサイト（指導者向け） ・新入生向け動画	・指導者向けの各種マニュアル ・指導者研修会の情報 など
大阪府八尾市	・ポータルサイト ・広報誌 ・自治体メール配信	・市の方針 ・モデル事業の情報 ・協賛企業の情報 など

➤ 東京都調布市



➤ 東京都昭島市



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- 生徒の多様なニーズに応じるため、アンケート調査を実施する
- 現在活動中の指導者との連携を密にし、休日、平日一貫指導と資質向上のための各種研修会実施

取組の成果

- 今年度アンケート調査は合計3回実施。
 - ・ 実態調査アンケートでは70%以上の生徒が休日の理想的な活動日数について「1日以上」と回答。
 - ・ 実証後のアンケートでは90%近くの生徒が地域クラブ活動の満足度について「満足」「どちらかといえば満足」と回答。
 - ・ 実証後のアンケートでは、80%以上の保護者が地域クラブ活動の満足度について「満足」「どちらかといえば満足」と回答。
- FC琉球さくらと連携し町内2中学校のサッカー部を対象にクリニックを実施。実施後のアンケートでは参加生徒の90%以上が満足と回答。

今後の取組における課題

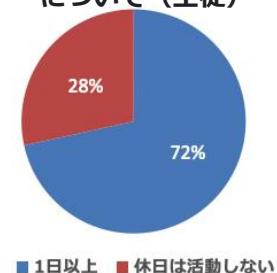
- FC琉球さくらとの連携に関して、シーズン中の休日に定期的に連携することは極めて困難である。
- 実証開始前の指導者研修は実施したものの、実証期間中の資質向上のための研修会については未実施。

課題への対応方針

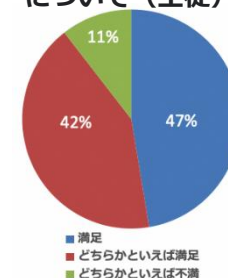
- FC琉球さくらとの連携に関しては、チーム側のメリットも踏まえた形での連携のあり方を引き続き協議していく。
- 実証期間中の資質向上のための研修会については、先行自治体の事例を参考に内容を精査した上で実施に向けて検討を行う。

●アンケート結果

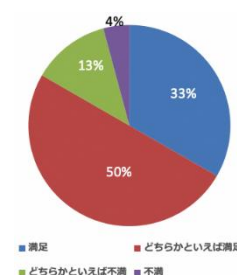
「休日」の理想的な練習日数について（生徒）



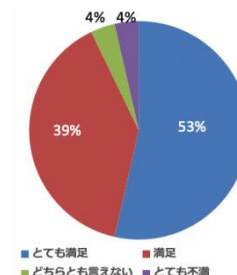
地域クラブの満足度について（生徒）



地域クラブの満足度について（保護者）



FC琉球さくら練習会の満足度について



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- 準要保護、要保護世帯への受益者負担軽減に関する取組
- 会費の金額設定等の費用負担の在り方に関する取組

取組の成果

- 準要保護、要保護世帯への受益者負担軽減に関しては今年度取組はなし
- 実証実施初年度である今年度から費用徴収を実施。
- 費用負担に関して、保護者へのアンケート調査では90%以上が理解できると回答し、一定の理解は得られている状況。

Q.休日の学校部活動を地域クラブに移行する際の費用負担について、あなたの考えに近いもの教えてください



今後の取組における課題

- 準要保護、要保護世帯への受益者負担軽減に関しては、今年度の取組や検討は行うことができなかった。
- 費用負担については、今年度は実証期間分の徴収を行ったが、参加費としての月謝を徴収するには至らなかった。

課題への対応方針

- 準要保護、要保護世帯への受益者負担軽減に関しては、先行自治体を参考にしながら財源も同時に検討を進める。
- 参加費については国が「地域クラブ活動に関する認定制度における「2. 認定要件の具体的な確認事項」にて示す「活動の維持・運営に必要な範囲で、可能な限り低廉な参加費」の検討を進め設定する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

収支バランス

持続可能な運営に必要な受益者負担額の試算

□ 収支バランスおよび運営可能な受益負担額について試算を行った。（運営団体の設置あり・なしの2パターン）

●運営団体設置型 運営収支モデル〔費用負担+民間・公的支援あり〕

設定条件 | 休日のみ活動/参加者20名（新規入会5名）/指導者2名 で試算 ※大会参加費・ウェア代は別途自己負担

収入									
	科目	単価（円）	数量	単位	数量	単位	数量	単位	小計（円）※税込
1	会費 年会費	0	1	年	25	人			0
2	会費 入会金	0	5	人					0
3	会費 月会費A	3,500	12	ヶ月	20	人			840,000
4	会費 月会費B	3,500	6	ヶ月	5	人			105,000
5	保険料 年間	800	1	年	25	人			20,000
6	寄付金・スポンサー	0							0
7	公費・補助金等	0							0
収入合計									965,000

会費収入のみでマイナス収支にならないよう金額を算出

支出									
	科目	単価（円）	数量	単位	数量	単位	数量	単位	小計（円）
1	報酬 指導者（技術指導）	1,600	3	時間	48	回	2	人	460,800
2	報酬 指導者（大会・審判等）	10,000	12	日	2	人			240,000
3	交通費 指導者	500	48	回	2	人			48,000
4	保険料 指導者	1,850	1	年	2	人			3,700
5	保険料 参加生徒	800	1	年	25	人			20,000
7	消耗品費 消毒・救急用品等	5,500	1	式					5,500
8	消耗品費 用具・備品等	50,000	1	式					50,000
9	施設使用料	30,000	1	式					30,000
10	システム利用費 参加者管理	110	12	ヶ月	25	人			33,000
11	システム利用費 指導者管理	5,500	1	年	2	人			11,000
12	広告宣伝費 チラシ及びHP制作	0							0
13	研修費 研修講師	0							0
14	研修費 指導者資格補助	0							0
15	参加費支援金（経済困窮世帯）	0							0
16	人件費 事務局	0							0
17	諸経費（振込手数料等）	10,000	1	式					10,000
支出合計									912,000

年間支出を概算で算出（財政支援なし）

資料作成：スポーツデータバンク沖縄（株）

年間収支 53,000

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

収支バランス

持続可能な運営に必要な受益者負担額の試算

□ 収支バランスおよび運営可能な受益負担額について試算を行った。（運営団体の設置あり・なしの2パターン）

●運営団体設置型 運営収支モデル〔費用負担+民間・公的支援あり〕

設定条件 | 休日のみ活動/ 20クラブ/ 参加者400名（新規入会100名）/ 指導者40名 で試算 ※大会参加費・ウェア代は別途自己負担

収入									
	科目	単価（円）	数量	単位	数量	単位	数量	単位	小計（円）※税込
1	会費 年会費	8,000	1	年	500	人			4,000,000
2	会費 入会金	0	5	人					0
3	会費 月会費A	3,500	12	ヶ月	400	人			16,800,000
4	会費 月会費B	3,500	6	ヶ月	100	人			2,100,000
5	保険料 年間	800	1	年	500	人			400,000
6	寄付金・スポンサー	3,000,000	1	年					3,000,000
7	公費・補助金等	6,000,000	1	年					6,000,000
収入合計									32,300,000

会費・公費・民間資金で試算

支出									
	科目	単価（円）	数量	単位	数量	単位	数量	単位	小計（円）※税込
1	報酬 指導者（技術指導）	1,600	3	時間	48	回	40	人	9,216,000
2	報酬 指導者（大会・審判等）	10,000	12	日	40	人			4,800,000
3	交通費 指導者	500	48	回	40	人			960,000
4	保険料 指導者	1,850	1	年	40	人			74,000
5	保険料 参加生徒	800	1	年	500	人			400,000
7	消耗品費 消毒・救急用品等	5,500	1	式	20	クラブ			110,000
8	消耗品費 用具・備品等	50,000	1	式	20	クラブ			1,000,000
9	施設使用料	0	学校施設を無償利用を想定						0
10	システム利用費 参加者管理	110	12	ヶ月	500	人			660,000
11	システム利用費 指導者管理	5,500	1	年	40	人			220,000
12	広告宣伝費 チラシ及びHP制作	1,000,000	1	式					1,000,000
13	研修費 研修講師	500,000	1	式					500,000
14	研修費 指導者資格補助	20,000	60	人					1,200,000
15	参加費支援金（経済困難世帯）	3,000	12	ヶ月	110	人			3,960,000
16	人件費 事務局（専従）	4,000,000	1	年	2	名			8,000,000
17	諸経費（振込手数料等）	10,000	1	式	20	クラブ			200,000
支出合計									32,300,000

年間支出を概算で算出
（一部財政支援あり）

年間収支 0

資料作成：スポーツデータバンク沖縄（株）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 学校施設の無償活用（受益者負担軽減：実証）
- 施設の効果的な活用や管理方法に関する取組

取組の成果

- 本年度実証を行ったクラブのうち、2クラブが学校施設を活用、1クラブが町営体育館を活用し活動を実施した。
- 学校施設の有効活用と教員の負担軽減（当日立会不要）を目的に、町立中学校1校にスマートキーボックスを設置し運用を行った。初めての設置ではあったが、設置にあたっては学校側の理解を得ることができ、調整や設置をスムーズに行うことができた。
- また、設置後の運用に関しても事前の周知や動画によるマニュアル作成・配布を行うことでスムーズに行うことができた。

今後の取組における課題

- 部活動で実施していない活動については、地域クラブ活動の実証を行っていないため、学校施設の無償活用について検証することができなかった。
- スマートキーボックスに関して、複数クラブでの利用については今回検証ができなかった。
また、耐久性やエラー発生時の対応についても検証ができなかった。

課題への対応方針

- 次年度以降、部活動で実施していない活動において地域クラブ活動の実証を行う際の学校施設の活用を想定し、庁内及び検討委員会等で合意形成を図り制度設計を進めていく。
- スマートキーボックスについては、設置場所の選定や設置の決定を早期に行い設置期間を長く取ることにより、耐久性やエラー発生時の対応等について検証を行える環境を作る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

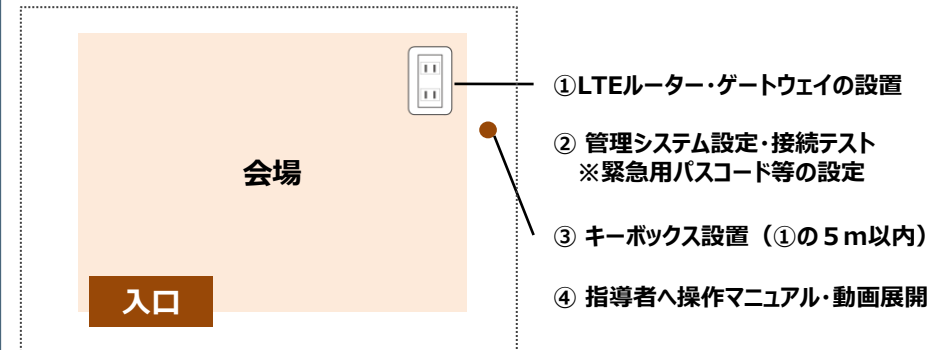
学校施設利用上の負担軽減に向けた取組

- 学校施設の有効活用と教員の負担軽減（当日立会不要）を目的に、町立中学校1校にスマートキーボックスを設置し運用を行った。

●設置状況・概要（スマートキーボックス）

機器	スマートキーボックス
設置場所	● 東風平中学校 対象：武道場 正面入口 鍵
設置内容	● キーボックス ● LTEルーター（インターネット接続） ● ゲートウェイ（LTE中継機器）
設置条件	1. LTE回線での接続が可能であること 2. 電源が確保できること（ゲートウェイ・LTEルーター用） 3. キーボックスが設置できる環境であること

設置方法および手順



用具使用・管理等における取組

- 今年度は具体的な取組なし
- 他地域の事例収集等を行った

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

- 今後の平日の地域展開も含めた検証の取組

取組の成果

- 実証を実施した3クラブのうち、ハンドボール及びバレーボールについては、これまで外部指導者として関わっていた指導者が参画しており、これまで同様平日も指導を行っているため、平日の地域展開についても一定の目処が立った。

今後の取組における課題

- すでに外部指導者として平日も指導を行っているクラブについては平日の地域展開について一定の目処が立った一方で、平日の部活動と休日の地域クラブ活動が分かれている活動における平日の地域展開については、具体的な方針や目処は立てられていない。
- 近隣地域を含めた沖縄県内全域での足並みを揃えていく流れが必要である（本町単独での検討や推進にはリソース等に限度がある）。

課題への対応方針

- 平日の地域展開に関しては、先行自治体の事例等を参考にしつつ、町としての特性を踏まえて方針を検討していく。
- 県内全域の取組みを増やすために、沖縄県教育委員会との連携を強化する。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度は実証初年度であったため、事業を計画通りに進めるための新たな発見や課題があった。

指導者の確保にあたっては、現在外部指導者として指導に参画しているバレーボールやハンドボールの他、卓球においては以前外部指導者として指導していた人材が参画し、指導経験豊富な人材を確保することができた。

また、受益者負担については、今年度は実証期間中の費用（一律1,000円）を徴収し、今後の活動費の徴収に向けた準備を行うことができた。費用負担にあたっては保護者の理解も一定程度得られているため、今後は適正な金額を検証し活動費の徴収を検証していきたい。

次年度は下記3点に注力し取組を推進し、令和13年度までの部活動（休日）の地域展開完了を目指し取組みを加速していきたい。

- 適切な受益者負担額の検討
- 企業版ふるさと納税の受け入れ準備
- 生徒、保護者、学校やスポーツ団体の関係者等の理解促進のための広報活動等

●成果の評価

指導者の確保や保険料の徴収について、今後の地域展開に向けた検証という点においては前向きな成果を残すことができた一方で、実証開始に遅延が発生したことについては次年度以降の課題改善点として挙げられる。

ただ、活動自体の満足度が高いことはアンケート結果から得られたため、次年度は活動の質については担保しつつ関係者の理解形成や指導者研修の早期受講を行い、計画通りの活動を行うことを目指す。

●今後に向けて

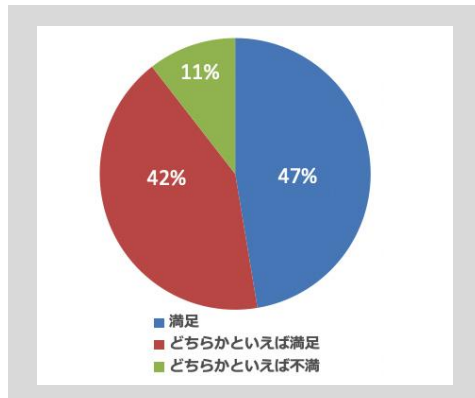
改革の理念	- 将来にわたって生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実 - 全ての生徒が希望に応じて多種多様な活動に参加できる環境を整備 - 学校部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展させつつ、地域全体で支えることによる新たな価値を創出	
取組方針	休日	令和13年度末までに休日の地域展開の実現（可能な限り、前倒しすることも検討）
	平日	国や県の方針を確認しつつ、可能な検証等を実施
推進計画	令和9年度中に公表を予定（国のガイドライン（改訂版）を参照 / 県の推進計画の改訂状況を確認）	
認定制度	- 国が示す要件等に基づき、地域クラブ活動の認定制度を運用 - 想定される認定効果（財政支援、学校施設の優先利用等）の制度検討と構築	
実証・対応	推進体制	- 実証クラブの継続または拡充 ※『認定地域クラブ』の仮認証（資料2参照） - 中学校・関係団体等・大学・民間企業との連携の強化
	課題対応	① 運営団体・実施主体の体制整備等 ② 指導者の確保・育成 ③ 活動場所の確保（学校施設の有効活用等） ④ 生徒の安全確保 ⑤ 受益者負担と公的負担バランス（民間活力等の活用）
	周知参加促進	- 生徒等のニーズの把握・反映 - 地域クラブ活動への参加促進のための情報提供等（ポータルサイトなどによる情報提供等）の検討
	関連制度	従事を希望する教師等の兼職兼業の円滑化
学校部活動	国や県のガイドライン改訂に沿った対応の実施	

2.実証内容と成果②

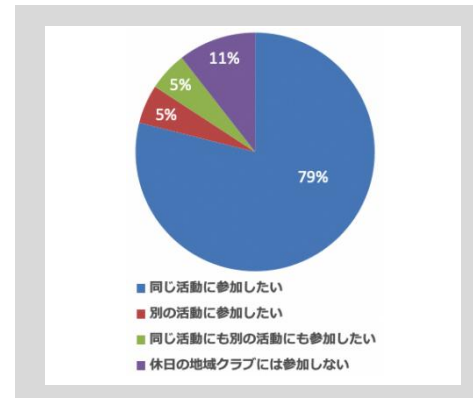
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

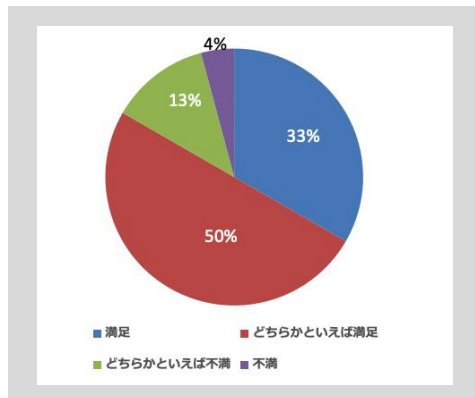
Q地域クラブの満足度を教えてください
(参加生徒)



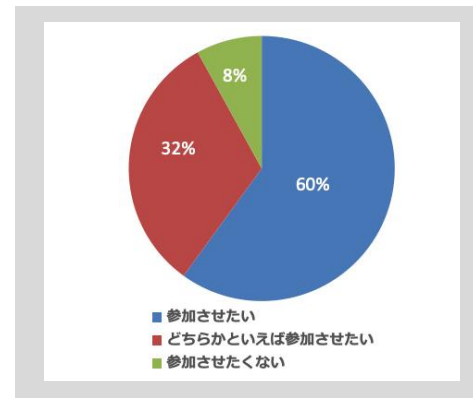
Q次年度も地域クラブを継続した場合、参加したいと思いますか (参加生徒)



Q地域クラブの満足度を教えてください
(生徒保護者)



Q次年度も休日の地域クラブを継続した場合、お子様を参加させたいと思いますか (生徒保護者)



●参加者/関係者の声

参加生徒

- ・普段一緒に活動している仲間と一緒に参加できる。
- ・好きな種目だから参加した。
- ・専門的な指導が受けられた。
- ・希望する活動ができた。

保護者

- ・子どもが参加したいと言ったため参加させた。
- ・指導者には専門的な指導ができることを求める。
- ・3年生の引退を踏まえると、4月前に説明が欲しい。

指導者

- ・今後の地域クラブ活動のイメージが湧いた。
- ・中学生年代の現場での指導経験を重ねられた。
- ・いくつかの方向性が見えた。
- ・学校とのコミュニケーションの強化を図りたい。

教員

- ・生徒の希望する活動ができている。
- ・生徒が専門的な指導が受けられている。
- ・専門技術のない身としては非常に助かる。
- ・4月に行われる部活動結成会での説明が必要。

2.実証内容と成果③

参考資料



【地域クラブ活動の様子（ハンドボール）】



【地域クラブ活動の様子（卓球）】



【地域クラブ活動の様子（バレーボール）】



【第3回検討協議会の様子】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



● ステークホルダー

教育委員会部局、町部局、総括コーディネーター、学校、町内スポーツ関係団体、地域指導者（近隣地域含む）

● 経過

本町では令和6年度より地域移行検討協議会を立ち上げ、同年度に3度検討協議会を開催。本年度より実証事業を開始し、2中学校の3部活の実証を行った。

また、重点地域における政策課題への取組として、FC琉球さくら（女子サッカー）と連携し2度のクリニックを開催した。

● 実施にあたって生じた課題

指導者研修の受講の遅れ等から、実証開始に遅延が発生した。

町内スポーツ協会や競技団体、文化協会との連携については、検討協議会に委員として出席しているものの、指導者や活動場所の確保といった点における連携は実施できず、次年度以降の課題となった。

● 実施内容、工夫した点 等

ハンドボール及びバレーボールの実証については、現在外部指導者として指導している方が参画したため、平日との運動性も確保した活動ができた。本町をホームタウンとして活動しているFC琉球さくらと連携した取組を実施し、次年度以降も継続した取組の可能性を見出すことができた。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

項目	令和8年度	令和9～13年度（可能な限り前倒しを検討）
八重瀬町版推進計画	公表（R9年度中）	
運営体制	モデル事業【課題抽出・分析】 ↓ 『八重瀬町モデル』の検討・整備 ・「認定制度」構築とクラブ確保（クラブ立上げ支援等） ・費用負担のあり方整理 ・学校と地域の役割分担整理 ・運営団体の検討・整備 ・生徒の受入れ準備	
指導者の質と量		指導者登録制度 ・人材バンクの設置検討 ・「登録制度（研修制度）」による指導者育成
施設	施設活用の体制整備（規則の変更等）	具体的運用整備・周知
教員の関わり方	兼職兼業の仕組み整備	具体的運用周知・運用開始
周知・広報	ポータルサイトの立ち上げと運用/市民・関係者への説明	
財源	寄付等の受入れ開始	寄付活用（地域クラブ運営支援補助金 等）の整備 運用開始